

## グラスベルク鉱山供給懸念も低調な中国PMIが重しに LME銅は続伸、NY銅は小幅高

6日入電のLME銅相場はの前日比78ドル高の7,442ドルと続伸。グラスベルク鉱山供給懸念で上昇も低調な中国PMIで上値は重い。

NY銅相場は0.20セント高の336.70セントと続伸。グラスベルク鉱山供給懸念で値を上げても低調な中国PMIが圧迫し小幅高。

NYカーブは7,452～7,455ドルとなり、LME先物比21.50ドル安となった。

### 錫は需給タイト感から上昇

LME錫相場は25ドル高の2万1,045ドルと続伸。需給タイト感から上昇して引けた。

### 鉛は在庫減を手掛かりに続伸

LME鉛相場は24ドル高の2,225ドルと続伸。在庫減を手掛かりに続伸して引けた。

### 亜鉛は在庫減から値を上げる

LME亜鉛相場は18ドル高の1,932ドルと続伸。在庫減から値を上げて引けた。

### アルミはドル安を受け続伸

LMEアルミ相場は32.5ドル高の1,943.5ドルと続伸。ドル安を受け上昇、続伸となった。LMEアルミ合金は45ドル高の1,842ドル、北米特殊アルミ合金は40ドル高の1,903ドル。

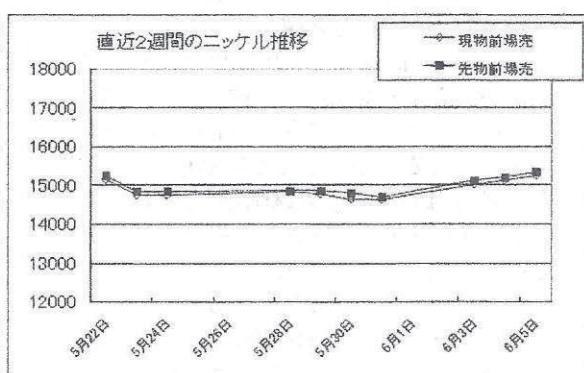
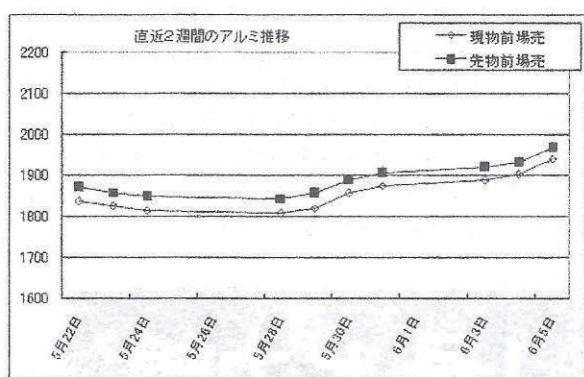
### ニッケルはドル安を受け値を上げる

LMEニッケル相場は175ドル高の1万5,275ドルと続伸。ドル安を受け値を上げて引けた。

### KLTM錫は11.3セント続落

#### 採算値は2万5,000円安

KLTM錫は前日相場と比べ11.3セント安の64.683Mドルと続落。USドルは50ドル安の2万950ドルで出来高は37トン。Mドル/USDレート=3.0875とTTSLレート100.30円で換算した採算値は2万5,000円安となる210万6,000円、諸掛込みの採算値は2万5,000円安となる226万6,000円となった。



## 橋本健一郎氏の5月アルミスクラップレポート及び6月見通し

■概況：前半は4月の中国の鉱工業生産が+9.3%と予測の9.5%を下回ったこと。中国CPIが2.4%と予測を上回った事による金融緩和期待の後退、などマイナス材料はあったものの、中国貿易統計が181億ドルと予測の161億5千万ドルを上回ったことや世界的な株高を背景に1840ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約3ドル上昇しての前半締めとなった。

後半はOECD(世界開発機構)が13年の世界GDPの見通しを+3.4%から+3.1%に引き下げたこと、5月の中国HSBCのPMI(製造業購買担当者指数)が49.6と予測の50.4を下回り7カ月ぶり

に景気判断の50を下回るなどマイナス材料もあったが、米住宅価格指数が10.9と予測の10.2%を上回ったこと、5月の消費者信頼感指数が76.2と予測の71.2を大きく上回った事、上海総合株の5週連続の上昇などファンダメンタルズの好転から、LME(現物後場)1885ドルと前半締めから45ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-6.5%の74万7730台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-7.3%の21万9099台。国土交通省統計によると新設住宅着

工戸数は前年比+5.8%の7万7894戸であった。貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、アルミ新地金が前月比-25%の63t、2次合金が+22.1%の802t、スクラップが+20.2%の13660t。輸入は、新地金が前年比-8.8%の13万4996t、2次合金が+3.9%の9万673t、スクラップが+20.4%の820t、合金スクラップは+1.4%の3805t。また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-3.1%の16万3436t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-0.4%の6万7437tであった。

■見通し:4月は米国金融緩和縮小観測と中国経済ファンダメンタルズに一喜一憂した月となった。金融緩和縮小観測報道が一方でFRBバーナンキ議長が緩和策の継続を発表、また英銀大手HSBC発表の5月の製造業購買担当者指数(PMI指数)が49.6と前月の50.4から低下、7カ月ぶりに景気判断の50を下回った。

自動車生産は前年比-6.5%悪化の8カ月連続マイナス。国内向け生産が+1.5%と回復する一方で輸出向け生産が-1.1%。販売の方はまたまた前年比割れ-7.3%。貨物車が+7%だったが乗用車が-9%だった。新設住宅着工戸数は先月に続き8カ月連続増加し前年比+3.9%(前月比(季節調整済み)+5.8%)の7万7894戸。今月も唯一堅調な住宅関連。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+0.4%と2カ月ぶりマイナス。大幅円安は継続してるもの輸出用自動車生産が減少したためとの見解。その他、圧延・押出品生産数は前年比-3.6%と悪化。圧延に関しては缶メーカーの在庫調整や自動車向けがエコカー減税の反動や中国・アジアへの輸出減から-10.1%。

輸出は新地金が前年比-25%の63t、2次合金が+22.1%の802t、スクラップが+20.2%の1万

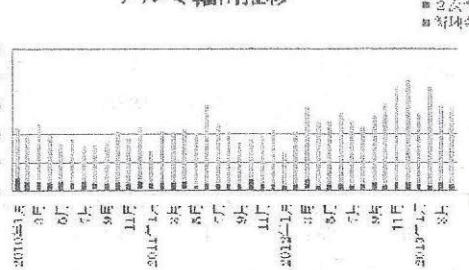
3660t。国内需要が旺盛な2次合金も含め大幅な円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-8.8%の13万4996t、2次合金は+3.9%の9万673t、スクラップは+20.4%の820t、合金スクラップは+1.4%の3805t。前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、2次合金・スクラップは国内玉不足からの手当で増加との見解。引き続き原料需給には供給不足。

アルミ需給に関しては住宅関連は新設住宅着工数が前年比+5.8%8カ月連続増加と堅調なもの、まだまだ自動車は生産が前年割れが続き先行きが不透明。5月の国内販売台数も-7.3%と改善はまだ見られない。ただ慢性的な発生減による原料不足、復興需要、増税前の駆け込み需要やアベノミクスによる公共事業新の増加なども期待でき引き続きメーカーは買取姿勢と予測。

LME価格に関しては中国・欧州の経済ファンダメンタルズに今月は左右される。欧州はECBが債務縮小期限を延ばすなど金融緩和に舵を切り出していることから仮に悪い指標が出てもさほど問題視されず比較的需給に沿った安定した相場になるとの予測から上値は5月最高値付近の200ドル。下値は銅価格の急落にも連れてファンダメンタルズに沿った動きがここ数カ月みられる事から直近安値の1800ドル。スクラップ価格についてはLME価格がもう一段の1900ドルに近づいた事や円安の長期化、国内需要の増加から据え置き~+5円程度の値上げがあるとの予測。

	2月	3月	4月
生産台数	86万8194台	82万3145台	74万7730台
前年比	-15.1%	-16.4%	-6.5%
	3月	4月	5月
製造台数	42万69台	21万3165台	21万9099台
前年比	-15.6%	+2%	-7.3%
	2月	3月	4月
新設住宅着工数	6万8969戸	7万1456戸	7万7894戸
前年比	+3%	+7.3%	+5.8%
	2月	3月	4月
輸入	新地金	9万5210t	13万4996t
	前年比	-26.6%	-8.8%
	2次合金	6万568t	9万0763t
	前年比	-35.8%	+3.9%
	スクラップ	723t	820t
	前年比	-20.7%	+20.4%
	合金スクラップ	3054t	3805t
	前年比	-20.1%	+1.4%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移

